

国語科 4年

単元	1 どんなどころが同じかな（『力を合わせてバラバラに』）	4月（1時間…A1）
目標	話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。	
評価 規準	(①知・技) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) (③主体的態度) これまでの学習を生かして、進んで話したり聞いたりし、相手の伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えようとしている。	
○ペアやグループで互いの共通点を探し合い、友達と感じたことを伝え合う。		

単元	2 詩を楽しもう（『春のうた』）	4月（1時間…C1）
目標	場面の様子が分かるように、読み方を工夫して音読することができる。	
評価 規準	(①知・技) 詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) (②思・判・表) 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度) 進んで詩全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って音読しようとしている。	
○「春のうた」を読み、連と連の間の場面の移り変わりや繰り返される「ほっ」「ケルルクック」に表れているかえるの気持ちが伝わる読み方の工夫を考えて音読する。		
【備考】 ○叙述を基にした発表や、書き込みの仕方などの学習習慣も指導する。 ○学習プリントは、学習範囲を1枚におさめ、考えを書き込める余白を作ったものを用意する。 ○音読の記号を決めて、書き込ませるとよい。 例：<（だんだん大きく）、>（だんだん小さく）、・（強調）、/（間）、等		

単元	3 楽しく書こう（『なりきって書こう』）	4月（1時間…B1）
目標	好きなものや身近なものについて、なりきって書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 修飾と被修飾との関係について理解している。((1)カ) (②思・判・表) 「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) (③主体的態度) 進んで感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、なりきって想像したことを書こうとしている。	
○P19の創作文例（「リク（犬・ハさい）」）を読み、「書きたい」「読み合いたい」という思いをもつとともに、学習の進め方を確かめる。 ○なりきるものを選び、ペアで書きたい内容を伝え合うことを通して、書く内容や文章の構成をはっきりさせる。 ○想像したことを150～200字で書く。 ○書いたものをいろいろな相手とペアで読み合い、感想を伝え合う。 ○P20「つづけてみよう」を読み、言葉日記をつけることに年間を通して継続的に取り組む意欲をもち、「ノートの手書き方」でノートの手書き方の工夫例を確かめる。		

単元	4 場面と場面をつなげて、考えたことを話そう（『白いぼうし』）		4月（8時間…C8）
目標	『白いぼうし』を読み、登場人物の性格や気持ちを、叙述を基に想像することができる。		
語活動	『白いぼうし』を読み、想像したことを聞き合う活動		
評価規準	(①知・技) 理解するための文字や語句について、辞書を利用して調べている。((2)イ) (②思・判・表) 登場人物の行動描写や会話文を基に、登場人物の性格や気持ちを想像しながら読んでいる。(C (1)イ) (③主体的態度) 登場人物の性格や気持ちを想像しながら進んで読もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○『白いぼうし』を読んで、印象に残った松井さんの会話や行動を話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 松井さんの性格や気持ちについて想像したことを聞き合う	○想像することについての問題意識を高められるよう、初発の感想を書く際の視点として、「はっきりしなかったこと」を提示する。
ふかめる	1 4	○場面を4つに分けたり、場面ごとの登場人物や中心人物を確認したり、難語句の意味を確認したりする。 ○場面ごとに、叙述を基に登場人物の気持ちを想像し、話し合う。 ・場面1（～P14L5）を読み、紳士と出会った松井さんの性格や気持ちを想像し、話し合う。 ・場面2（～P17L1）を読み、もんしろちょうと出会った松井さんの性格や気持ちを想像し、話し合う。 ・場面3（～P18L12）を読み、女の子や男の子と出会った松井さんの性格や気持ちを想像し、話し合う。 ・場面4（～終わり）を読み、ちょうと出会った松井さんの性格や気持ちを想像し、話し合う。	○理解するための語彙を増やすことが出来るように、難語句について辞書で調べる時間を確保する。 ○行動描写や会話文を根拠に登場人物の性格や気持ちを想像できるように、場面ごとに描写を捉える視点として「行動」「様子」「会話」「思考」を提示する。
ふりかえる	1 1	○物語全体を通した松井さんの性格や気持ちについての感想をまとめ、読み合う。 ○まとめテストを行う。	○気持ちの変化に着目して感想を書けるよう、これまでの学習での松井さんの気持ちの変化を視点として提示する。
【備考】 ○様子を表す言葉やたとえの表現を根拠に、出来事の状態を具体的に想像することができるよう、想像の視点「見る位置」（「（登場人物に）なって感じる」「（登場人物を）見て気付く」と、「見方」（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を提示する。 ○出来事の状態について想像したこと同士を結び付けながら、より具体的に想像することができるよう、想像したことを書き込める、ペアで1枚の本文シートを用意する。 ○辞書はいつも用意し、必要に応じていつでも言葉の意味を確かめられるようにする。（できるだけ個人のものを使用させるとよい。図書室にある40冊も利用可能。） ○人物や気持ち等を表す言葉については、p157～158「言葉のたから箱」を用いるなどして、語彙の充実を図るようにする。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

◇想像がはっきりしなかった部分に関わって、学習課題について考えたことを記述している。
 <ノート③>

◇難語句について、辞書を利用して調べ、ノートや本文シートに記録している。
 <ノート・本文シート①>

◇行動描写や会話文から、松井さんの性格や気持ちについて想像したことを記述している。
 <学習プリント②>

◇松井さんの性格や気持ちについて、場面ごとの叙述を基に感想をまとめている。
 <感想②>

◇6割以上の問題について、正答を出している。
 <テスト②>

〈読書〉（『図書館の達人になろう』）		4月（1時間…知・技1）
目標	幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) (③主体的態度) 読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに進んで気付き、これまでの経験を生かして、地域や学校の図書館の役割や工夫について話し合おうとしている。	
○図書館の役割を話し合い、本を探しやすくする工夫を図書室内から見付ける。		
【備考】		
○司書に依頼して、本を探しやすくする工夫について話していただくことも考えられる。		

〈言葉〉（『漢字辞典を使おう』）		4月（2時間…知・技2）
目標	漢字辞書の使い方を理解し使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 漢字辞書の使い方を理解し使っている。((2)イ) (③主体的態度) 積極的に漢字辞典の使い方を理解し、学習課題に沿って漢字辞典を使おうとしている。	
○漢字辞典で漢字の説明を読み、漢字辞典から調べられることを見付ける。		
○「音訓さくいん」「部首さくいん」「総画さくいん」を使った調べ方を知り、さくいんを用いてこれまでに習った漢字を調べる。		
【備考】		
○漢字を調べる際には、読み方を調べたい場合、成り立ちを調べたい場合など、状況を共有して練習を行うとよい。		

〈季節の言葉1〉（『春の楽しみ』）		4月（2時間…B2）
目標	言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。	
評価 規準	(①知・技) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) (②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B (1)ア) (③主体的態度) 積極的に語彙を豊かにし、学習課題に沿って、行事を説明する文章を書こうとしている。	
○挿絵や写真を見たり、俳句を読んだりして、知っている春の行事を話し合ったり、図書等で調べたりする。		
○春の行事について簡単な説明をカードに書き、友達と交流する。		
【備考】		
○学習後は、行事の説明を書いたカードを模造紙等に貼り合わせて掲示するとよい。		

単元	5 大事なことを落とさずに聞こう（『聞き取りメモの工夫』『話し方や聞き方から伝わること』）		5月（6時間…A6）
目標	知らないことを詳しい人から聞いて調べるといった目的をもって、自分たちにとって大事な情報は何かを考えながら聞くことができる。		
話し活動	調べる目的をもって、メモを取りながら話を聞く活動		
評価規準	(①知・技) 相手を見て話したり聞いたりしている。((1)イ) 比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、中心を捉えている。(A (1)エ) (③主体的態度) 積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習課題に沿って、工夫してメモを取ったり、それを基に発表したりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○これまでの学習でメモを取った経験を話し合ったり、『聞き取りメモの工夫』を読んだ感想を話し合ったりし、学習課題をつかむ。 学習課題 話の大事なところを落とさずにメモを取るための工夫を見付けよう	○単元の学習の見通しをもてるように、これまでの学習でメモを取ってうまくいったことや失敗したことを話し合う機会を設定する。
ふかめる	1 2 1	○「係のお知らせの放送」を聞いてメモを取り、メモの取り方の工夫を話し合う。 ○よく知らないことについて、詳しい人に話を聞き、メモを取る。(※他教科の学習と関連させるとよい) ○聞いてきたことをメモを基に発表し、メモの取り方の工夫を話し合う。	○メモの取り方の工夫に気付けるよう、グループで互いのメモの取り方を話し合う機会を設定する。 ○メモを取る際の目的意識を明確にもてるよう、詳しい人に直接話を聞きに行く活動やそのための質問を考える機会を設定する。 ○メモの取り方の工夫を具体的に捉えられるよう、自分と友達のメモを比較しながら話し合う機会を設定する。
ふりかえる	1	○「話し方や聞き方から伝わること」を読み、相手の受け止め方を意識した話の聞き方やメモの取り方について話し合い、単元の学習を振り返る。	○相手の受け止め方に配慮したよりよい話の聞き方やメモの取り方に気付けるよう、聞き取り活動中の「聞き方」や「質問の仕方」等の観点を提示する。
【備考】 ○「ふかめる」過程の第1時で用いる「係のお知らせの放送」は、教科書p.41を教師が読み上げるか、指導書の付属CDを用いるとよい。 ○「ふかめる」過程で詳しい人に話を聞く活動は、1学期の社会科の学習（清掃工場現場学習、前橋市防災危機管理課のゲストティーチャーを招いた学習等）と関連させて行うとよい。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇メモの取り方について、自分の経験を基に発言している。 <発言③>

◇箇条書きや簡単な書き方、記号や線を用いていることに触れて記述している。 <発言①>

◇メモの取り方の工夫を生かし、箇条書きや簡単な書き方、記号や線を用いるなどの方法でメモを取っている。 <学習プリント②>

◇自分や友達のメモの取り方の工夫について、具体的な方法やその効果について発言したり、記述したりしている。 <発言・ノート②>

◇メモの取り方について、できるようになったことやこれから気を付けたいこと等を記述している。 <ノート③>

〈言葉の学習〉（『カンジーはかせの都道府県の旅1』）		5月（2時間…知・技2）
目標	第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第4学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1) エ) (③主体的態度) 進んで第4学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、見通しをもって、都道府県名を使った文を作ろうとしている。	
○都道府県名を使った文をつくる。 ○都道府県名をローマ字で書く。		
【備考】 ○1学期「カンジーはかせの都道府県のたび2」とともに、社会科「都道府県を調べよう」との関連を図りながら行うようにする。 ○ローマ字表はp136に示されている。 ○家庭学習等でも定着を図るようにする。		

〈言葉の学習〉（『漢字の広場①』）		5月（1時間…B1）
目標	第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1) エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B (1) エ) (③主体的態度) 進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って文を書こうとしている。	
○挿絵から町の様子を想像し、提示された言葉を使って文章を書き、友達と読み合っって漢字の使い方の正誤を評価し合う。		

単元	6 くらべ上手になろう（『思いやりのデザイン』『アップとルーズで伝える』）	5月（15時間…B6・C9）		
目標	二つの事物を比べて紹介する文章を書くという目的に応じて、事例の対比的な説明に着目しながら筆者の考えを捉えて読むこと。			
語活動	二つの事物を比べて紹介する文章を書く活動			
評価 規準	(①知・技) 段落の役割について理解している。((1) カ) 考えとそれを支える理由や事例との関係について理解している。((2) ア) (②思・判・表) 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C (1) ア) 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B (1) ウ) (③主体的態度) 考えとそれを支える理由や事例との関係などを捉えることに積極的に取り組み、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○学校生活で複数のことを比較して話し合う場面における問題点について話し合い、『アップとルーズで伝える』を読んで、初発の感想を書く。	○文章構成や文章の内容に関わらせて感想をもてるよう、感想の視点「説明の仕方であつたこと」「興味をもつた内容」を提示する。	◇文章構成や文章の内容に関わらせて感想を記述している。 <ノート③>
	1	○初発の感想や、『思いやりのデザイン』の説明に仕方のよさについて話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比べる説明のよさを見付け、『比べる紹介文』を書こう</div>	○対比的な説明のよさを見付けて紹介文を書くという学習の見通しをもてるよう、『思いやりのデザイン』を読む視点として、「比べることで分かりやすくなること」を提示する。	◇対比的な説明への必要感について、感想を記述している。 <ノート③>

ふかめる	1	○『アップとルーズを伝える』の文章構成を話し合う。	○内容のまとまりに着目しながら文章構成を捉えられるよう、三段構成の意味段落ごとの役割(話題提示, 説明, まとめ)を提示する。	◇文章内容を手がかりに文章全体を三段構成に分けている。 ＜学習プリント①C＞
	2	○①②③段落を読み, 事例の対比的な説明を捉える。	○段落相互の関係を視覚的に捉えられるよう, 操作して関係を表せる段落カードを用意する。	◇①②段落がアップとルーズの事例を対比的に説明し, それらを受けて③段落の問いが示されていることを段落カードで表している。＜段落カード②C＞
	2	○④⑤⑥段落を読み, 事例の対比的な説明のよさを話し合う。	○対比的な説明を用いた事例の段落と, 考えの段落とのつながりを考えるきっかけを得られるよう, ⑥段落の一部を書き換えたリライト文を提示する。	◇長所と短所の両方を対比的に説明していることよさを記述している。＜学習プリント②C＞
	1	○⑦段落を読み, ⑦段落と④⑤⑥段落の関係を話し合う。	○⑦段落があることよさに気付くきっかけを得られるよう, ⑦段落と④⑤⑥段落の関係を, 段落カードを用いて図示する。	◇⑦段落があることよさを記述している。 ＜学習プリント②C＞
	3	○対比的な説明を用いて, 「比べる紹介文」の下書きをする。	○長所と短所の両面を述べる対比的な説明に着目して, 事例の段落を捉えられるよう, 「つかむ」過程で提示した「比べる紹介文」の長所と短所を色分けして提示する。	◇二つの事例について, それぞれ段落の前半に長所, 後半に短所, 事例の段落の後に考えという構成で, 下書きを書いている。 ＜下書き②B＞
	1	○下書きを友達と読み合い, 修正点をアドバイスし合う。	○対比部分を中心にアドバイスし合えるよう, 「対比的な説明の伝わりやすさ」を観点として提示する。	◇対比的な説明の伝わりやすさに関わってよい点や修正点を伝えている。 ＜発言②B＞
1	○「比べる紹介文」の清書をする。	○書式を整えて清書できるよう, 原稿用紙を用意する。	◇長所と短所の対比的な関係を明確にしながら清書をしている。 ＜清書②B＞	
ふりかえる	1	○「比べる紹介文」を友達と読み合って, 単元の学習の振り返りをする。	○対比的な説明のよさを実感できるよう, 「比べる紹介文」を読む際の視点「二つの事例の長所と短所」を提示する。	◇友達の「比べる紹介文」から捉えた二つの事例の長所と短所や, 対比的な説明のよさを記述している。 ＜ノート③＞
	1	○まとめテストを行う。		◇6割以上の問題について, 正答を出している。 ＜テスト②＞

【備考】

- R03～04はロイロノートに段落カードを用意した。段落カードの例はロイロノートに保存済み。
- 原稿用紙の使い方は, p134～135ページに示されている。
- 「比べる紹介文」の作品例がカリ管にデータで保存してある。
- まとめのテストについては, 裏面の言葉の学習の授業に応じて, 実施の時期を決める。

単元	7 感謝の手紙を書こう (『お礼の気持ちを伝えよう』)	6月 (6時間…B6)
目標	相手や目的を意識し, 伝えたいことを明確にして書くことを選び, 文や文章を整えて手紙を書くことができる。	
話し活動	感謝の気持ちを伝える手紙を書く活動	
評価規準	(①知・技) 言葉には, 考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((1) ア) 丁寧な言葉を使うとともに, 敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1) キ) (②思・判・表) 「書くこと」において, 相手や目的を意識して, 書くことを選び, 伝えたいことを明確にしている。(B (1) ア)	

国語科 4年

「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) (③主体的態度) 書く内容の中心を明確にし、構成を考えることに進んで取り組み、これまでの経験をいかして手紙を書こうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○現場学習等でお世話になった経験を振り返り、学習課題をつかむ。 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">感謝の気持ちが伝わる手紙を書いて送ろう</div>	○感謝の気持ちを伝えることに対する問題意識を高められるよう、手紙のモデルを提示する。
ふかめる	1 3	○手紙の書き方を知り、内容を選ぶ。 ○手紙を書く。(下書き・清書)	○時と場に応じた手紙の型を理解することができるよう、「はじめのあいさつ」「本文」「結びのあいさつ」「後付け」という手紙の型を提示する。 ○文や文章を整えながら手紙を書くことができるよう、清書の便箋と同型式の下書き用紙を用意する。
かふえり	1	○手紙を送り、学習を振り返る。	○相手や目的に応じて内容や表現を選ぶことに関わって学習の達成感を得られるよう、単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。
【備考】 ○書写「手紙の書き方」と関連を図る。 ○RO4は社会科『水とわたしたちの暮らし』の浄水場担当者やくすの木のゲストティーチャーに向けて書いた。			

〈言葉の学習〉 (『漢字の広場②』)		6月(1時間…B1)
目標	第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価規準	(①知・技) 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) (③主体的態度) 進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、見通しをもって文を書こうとしている。	
○挿絵を参考に夏の楽しみを想起し、提示された言葉を使って文章を書き、友達と読み合って漢字の使い方の正誤を評価し合う。		

単元	8 場面をくらべながら読もう (『一つの花』)		6月 (8時間…C8)
目標	『一つの花』を読み、場面の移り変わりに注意しながら、人物の気持ちや場面の様子を叙述を基に想像したり、それを基にした感想をまとめたりすることができる。		
語活動	『一つの花』を読み、想像したことを聞き合う活動		
評価規準	(①知・技) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(C(1)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) (③主体的態度) 進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、物語の感想を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○『一つの花』を読んで初発の感想を発表し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 場面ごとのゆみ子に対する両親の願いや気持ちを比べながら読み、感想をまとめよう ○最初の場面(P.68～P.70L2)を読み、物語の時代背景を読み取る。	○初発の感想を共有することができるように、感想を場面ごとに整理して板書する。 ○戦争の時代の人々の生活について理解することができるように、分からない言葉を調べる時間を設定する。
	4	○場面ごとに、想像したことを聞き合う。 ・最初の場面(P.70L3～P.71)を読み、ゆみ子に対する両親の願いや気持ちを読み取る。 ・出征するお父さんを見送るためにホームで待つ場面(P.72～P.74L1)を読み、ゆみ子に対する父親の願いや気持ちを読み取る。 ・「一つだけ」と泣くゆみ子にコスモスをやり、出征する場面(P.74L2～P.75)を読み、ゆみ子に対する父親の願いや気持ちを読み取る。 ・十年後の場面(P.76～P.77)を読み、ゆみ子と母親の暮らしぶりを読み取る。 ○十年後の場面と最初の場面を比べて読み、登場人物や場面の様子の違いを考えたり、題名の『一つの花』が表していることを考えたりする。	○両親の気持ちや場面の様子を表す叙述を明らかにしながら聞き合うことができるように、会話文や行動描写、情景描写等の着目した叙述に印を付けながら、想像を聞き合う時間を十分に設定する。 ○登場人物や場面の様子の違いを考えることができるように、場面を比較する際の観点「生活」「食事」「家族」を提示する。
ふりかえる	1	○『一つの花』の感想や、学習してきたことを感想文にまとめ、友達と交流する。	○学習の感想をまとめることができるように、初発の感想と比較するなどし、感想が変容したことを実感できる機会を設定する。
	1	○まとめテストを行う。	
【備考】 ○様子を表す言葉やたとえの表現を根拠に、出来事の状態を具体的に想像することができるよう、想像の視点「見る位置」(「(登場人物に)なって感じる」「(登場人物を)見て気付く」)と、「見方」(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)を提示する。 ○出来事の状態について想像したこと同士を結び付けながら、より具体的に想像することができるよう、想像したことを書き込める、ペアで1枚の本文シートを用意する。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇戦争中と十年後の場面の感想を比べて気付いたことを発言している。
<発言③>

◇戦争の時代背景を読み取り、食べ物(お米)も満足に食べられないものであることを発言したり、記述したりしている。
<発言・ノート①>

◇登場人物の気持ちについて想像する際、具体的な会話文や行動描写、情景描写などを根拠にしている。
<ノート①>

◇最初の場面と十年後の場面でのゆみ子や状況の違いを捉え、変化の理由を具体的に想像して記述している。
<ノート②>

◇ゆみ子に対する両親の願いや気持ちにふれ、初発の感想と比較して考えたことを記述している。
<ノート③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。
<テスト②>

〈言葉の学習〉（『つなぎ言葉のはたらきを知ろう』）		6月（4時間…知・技4）
目標	接続する語句の役割について理解することができる。	
評価 規準	(①知・技) 接続する語句の役割について理解している。((1)カ) (③主体的態度) 進んで接続する語句の役割を理解しようとし、これまでの学習や経験を生かして、接続する語句を使い分けようとしている。	
○つなぎ言葉による文同士のつながり方の違いを話し合ったり、様々なつなぎ言葉とその働きを知ったりする。 ○つなぎ言葉を使って短文を書き、友達と伝え合う。 ○1学期の言語事項について、まとめのテストをする。		
【備考】		

〈声に出して楽しもう〉（『短歌・俳句に親しもう（一）』）		6月（1時間…知・技1）
目標	易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。	
評価 規準	(①知・技) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) (③主体的態度) 進んで言葉の響きやリズムに親しみ、これまでの学習を生かして、音読したり暗唱したりしようとしている。	
○短歌・俳句を繰り返し音読し、言葉の調子や響きを楽しむ。		
【備考】		
○言葉の調子や響きに繰り返し親しめるよう、家庭での音読を推奨するようにする。		

〈情報〉（『要約するとき』）		6月（2時間…C2）
目標	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。	
評価 規準	(①知・技) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) (②思・判・表) 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ) (③主体的態度) 積極的に目的を意識して、中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、文章を要約しようとしている。	
○要約について知り、要約するときに気を付けることや大切なことを話し合う。		
○『思いやりのデザイン』を、内容を知らない人に説明するつもりで100字程度で要約し、友達と読み合う。		

単元	9 現場学習新聞を作ろう（『新聞を作ろう』）		6・7月（12時間…B12）
目標	伝えたいことが明確になるように、段落相互の関係を意識して文章を書くことができる。		
語活動	現場学習で調べたことから新聞をつくる活動		
評価規準	(①知・技) 比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。(2)イ) (②思・判・表) 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の关系到意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) (③主体的態度) 進んで相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、構成を考え、学習の見通しをもって学級新聞を作ろうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○これまでの現場学習で特に印象に残ったことを発表し合ったり、インタビューなどをして役に立ったことを話し合ったりして、学習課題をつかむ。 学習課題 現場学習で調べたいことを決めて、『○○新聞』を作ろう	○記録の内容や方法についての見通しをもてるように、過年度の児童の作品を提示する。 ◇見学してきた事実を正確に残すことや、事実についての自分の感想や考えを書いておくことなど、記録する内容について記述している。 <ノート③>
ふかめる	1	○教材文を読み、新聞の特徴や新聞の作り方を話し合う。	○新聞の作り方の見通しがもてるよう、取材の仕方や割り付けの仕方について、観点ごとに必要なことを話し合う活動を設定する。
社会	1	○現場学習で見学する場所の中から、特に詳しく調べたい事柄を決める。 ※社会科の現場学習を行う。	○特に調べたい事柄を考えることができるように、しおりを基に取材内容を考える時間を設定する。
	2	○集めた書く事柄の中でもっとも詳しく書くところと簡単に書くところやその順序を決め、割り付けを考える。 ○割り付けを基に新聞記事の下書きを書く。	○文章の構成に沿って割り付けを考えられるように、文章構成例を提示する。 ・〈はじめ〉報告することや現場学習の概要 ・〈中〉見学したことや調べたこと ・〈終わり〉感想や意見 ○段落ごとに事実と意見を区別して書くことができるように、事実と意見を明確に分けることができる新聞記事を例示する。
	1	○友達と下書きを読み合い、よいところを教え合ったり、事実を確認し合ったりする。	○段落や文章構成のよさに気付けるように、読み合う際の観点「段落ごとのまとまり」「全体の組立て」を提示する。
	2	○伝えたいことの内容がはっきりしているか書いている内容や文の組立てを確かめたり、接続語や指示語、誤字脱字などを確認したりして清書する。	○下書きを修正できるように、校正の際の観点を提示する。
かひる	1	○「○○新聞掲示版」を作成して互いの作品を読み合い、よさを見付け合い、学習を終えての感想を書く。	○友だちの作品のよさに気付けるように、読む際の観点を助言したり、作文や取組のよさを具体的に指摘したりする。 ◇書き方や内容のよさにふれて感想を伝えている。 <発言・ノート③>

〈言葉の学習〉（『カンジーはかせの都道府県の旅2』）		7月（2時間…知・技2）
目標	第4学年までに担当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第4学年までに担当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1) エ) (③主体的態度) 進んで第4学年までに担当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。	
○都道府県名を使った文をつくる。 ○都道府県名をローマ字で書く。 ○1学期の言葉のテストをする。		
【備考】 ○1学期「カンジーはかせの都道府県のたび1」とともに、社会科「都道府県を調べよう」との関連を図りながら行うようにする。 ○ローマ字表はp136に示されている。		

〈季節の言葉2〉（『夏の楽しみ』）		7月（2時間…B2）
目標	言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。	
評価 規準	(①知・技) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1) オ) (②思・判・表) 「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。 (③主体的態度) 積極的に語彙を豊かにし、学習課題に沿って、行事の様子を俳句で表そうとしている。 (B (1) オ)	
○挿絵や写真を見たり、俳句や短歌を読んだりして、夏の行事や様子を表す言葉を話し合ったり、図書等で調べたりする。 ○夏の行事に関する言葉を選んで俳句を作り、友達と伝え合う。		
【備考】 ○学習後は、俳句を書いたカードを模造紙等に貼り合わせて掲示するとよい。		

〈読書〉（『本のポップや帯を作ろう』『神様の階段』）		8・9月（5時間…C5）
目標	幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。(3)オ (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) (③主体的態度) 進んで幅広く読書に親しみ、学習の見通しをもって、読んだ本をポップ等で紹介しようとしている。	
○これまでに読んだノンフィクションを紹介し合い、読みたいノンフィクションを選ぶ。 ○p105のポップ例を基に、選んだノンフィクションでポップをつくる。 ○作ったポップを用いて互いに読んだノンフィクションを紹介し合う。		
【備考】 ○司書の先生に依頼し、4年生向けのノンフィクションを選定していただくとよい。		

単元	10 詩を味わおう（『忘れもの』『ぼくは川』）	9月（2時間…C2）
目標	詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。	
話し活動	詩を読んで想像したことを話し合う活動	
評価 規準	(①知・技) 詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク (②思・判・表) 「読むこと」において、詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) (③主体的態度) 詩を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、詩を読んだ感想を述べようとしている。	
○場面の様子や人物の気持ちを想像しながら声に出して読み、それぞれの詩の特徴的な表現について話し合う。 ○それぞれの詩の「ぼく」はどんな思いをもっているかを話し合う。		

単元	11 言葉のかけ方を考えよう（『あなたなら、どう言う?』）	9月（3時間…A3）
目標	目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。	
話し活動	役割を交代しながら適切な言葉をかけ合う活動	
評価 規準	(①知・技) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) (③主体的態度) 様々な立場でやり取りを行い、学習の内容に見通しをもち、互いの意見の共通点や相違点に着目して積極的に考えをまとめようとしている。	
○p118の状況での両者の言葉のかけ方について話し合う。 ○グループで役割を交代しながらやり取りをし、互いの言葉かけの共通点や相違点を話し合う。 ○自分とは違う立場になって考えることのよさについて話し合う。		
【備考】 ○各グループに、教育実習生を話し合いの助言役として位置付けるとよい。		

国語科 4年

単元	12 工夫を見付けよう（『パンフレットを読もう』）	9月（2時間…C2）
目標	パンフレットを読んで中心となる語や文を見つけ、理解したことに基づいて感想や考えをもつことができる。	
話し活動	パンフレットを紹介する活動	
評価規準	(①知・技) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1) オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、パンフレットの目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。(C (1) ウ) 「読むこと」において、パンフレットを読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C (1) オ) (③主体的態度) 読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、パンフレットの工夫について話し合おうとしている。	
	○パンフレットを読んだ経験を紹介し合い、パンフレットの例を基にパンフレットの特徴を話し合う。 ○パンフレットの工夫について話し合う。	
	【備考】 ○社会科現場学習、4年林間学校等に関わるパンフレット（社会科部室、カリ管室に数種類保管）を集めて提示できるとよい。	

単元	13 書くときに使おう（『どう直したらいいかな』）	9月（2時間…B2）
目標	目的や相手を意識しながら、間違いを正し、文章を書き直すことができる。	
話し活動	相手や目的に応じて、文章を修正する活動	
評価規準	(①知・技) 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1) カ) (②思・判・表) 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1) キ) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B (1) エ) (③主体的態度) 進んで文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、学習の見通しをもって、文章を推敲しようとしている。	
	○文章を書いた後、これまでどのように見直していたかを想起する。 ○P126-127の卓球クラブの紹介文例を比べて読み、どこをどのように直したのか、なぜそのように直したのかを考えて話し合う。 ○P127の町の特徴を説明する文例を、1年生に読んでもらう文章に書き直す。 ○学習を振り返る。	

〈言葉の学習〉（『いろいろな意味をもつ言葉』）		9月（3時間…知・技3）
目標	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増すとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。	
評価規準	(①知・技) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増すとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1) オ) (③主体的態度) 進んで語彙を豊かにし、学習の流れに沿って、国語辞典で言葉の意味を調べたり、言葉遊びの詩を作ったりしようとしている。	
	○多義語について理解し、国語辞典を使って例題を解く。 ○多義語を使って言葉遊びの詩を作る。 ○作った詩を友達と伝え合う。	
	【備考】 ○国語辞典を繰り返し用いる機会を設け、使い慣れるようにする。 ○国語辞典は図書室から借りることができる。	

〈言葉の学習〉（『ローマ字を使いこなそう』）		9月（2時間…知・技2）
目標	日常で使われている簡単な単語について、ローマ字で書き、ローマ字に慣れ親しむことができる。	
評価 規準	(①知・技) 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(1)ウ (③主体的態度) 積極的にローマ字の表記を考え、これまでの学習をいかして、ローマ字を書こうとしている。	
○ローマ字の使われ方を知る。 ○ローマ字で表記する際、二つの書き方（訓令式、ヘボン式）があることを知る。 ○例示された言葉や身の回りの言葉を、訓令式とヘボン式でそれぞれ書く。 ○場面に応じた訓令式とヘボン式の使い分けについて考える。 ○日本語のローマ字表記と英語は、違うことを知る。		

〈言葉の学習〉（『漢字の広場③』）		9月（1時間…B1）
目標	第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 接続する語句の役割について理解している。(1)カ (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) (③主体的態度) 進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、今までの学習を生かして、文や文章を書こうとしている。	
○教科書の絵を見て、場面や出来事を想像し、提示された言葉を使いながら、「おむすびころりん」と「浦島太郎」の話を完成させる。		
【備考】		
○ペアで2つの話を分担して作り、交換して評価し合うとよい。		

単元	14 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう。(『未来につなぐ工芸品』『工芸品のみりよくを伝えよう』)		9・10月（14時間…B8C6）
目標	目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約するとともに、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。		
話し動	工芸品のよさについてリーフレットにまとめること		
評価 規準	(①知・技) 段落の役割について理解している。(1)カ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ (②思・判・表) 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ) (③主体的態度) 進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫したりしようとし、学習の見通しをもって、調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つか む	1	○『未来につなぐ工芸品』を読み、リーフレットの特徴を話し、学習課題をつかむ。 学習課題 中心となる語や文を見つけて要約し、工芸品について調べたことをリーフレットで紹介しよう。	○学習の見通しをもてるよう、教科書のリーフレット例を参考に、書いてある内容や書き方について気付いたことを話し合う機会を設定する。
		評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
		◇リーフレットから分かることや書き方の特徴について記述している。 <発言・ノート③>	

国語科 4年

ふかめる	2	○段落ごとの中心となる語や文を確かめながら読み、文章の構成を捉える。	○叙述を共有しながら中心となる語や文を見付けられるよう、ペアで1枚の本文シートを用意する。	◇段落ごとの中心となる文や語に印を付けている。 ＜本文シート①＞
	1	○中心となる語や文を用いて要約文を書く。	○中心となり語や文のつながりを意識しながら文や文章を整えて書けるよう、字数を制限（200字程度）した要約用紙を用意する。	◇中心となる語や文を用いて要約文を書いている。 ＜要約文②C＞
	1	○要約文を読み合い、要約の仕方について気付いたことを話し合う。	○書いた要約文のよいところに気付けるよう、要約文を読む際の「中心となる語や文」「文のつながり」を提示する。	◇自分や友だちの要約文のよいところを発言したり記述したりしている。 ＜発言・ノート②C＞
	1	○リーフレットで紹介したい工芸品を決める。	○工芸品について、興味に応じて書く話題を選べるよう、図書室や県立図書館の館外貸し出し等を利用して、工芸品に関する図書を多数用意する。	◇リーフレットで紹介したい話題を選んでいる。 ＜ノート③B＞
	1	○リーフレットの構成を確かめる。	○図書から見付ける情報についての見通しがもてるよう、リーフレット例の段落ごとに書かれている内容を話し合う機会を設定する。	◇「大まかな説明」「みりよく1」「みりよく2」「まとめ」という構成に気付いている。 ＜ノート②B＞
	2	○工芸品に関する本を読み、工芸品のよさが書かれている部分を要約する。	○伝えたいことと理由や例の関わりを意識できるよう、教科書のリーフレット例の文章構成を話し合う機会を設定する。	◇リーフレットの「みりよく1」「みりよく2」にあたる部分を、図書から要約して書いている。 ＜要約文②B＞
	2	○要約文を用いてリーフレットの下書きをする。	○リーフレットの構成に合わせて文章を書けるよう、構成を示した下書き用紙を用意する。	◇伝えたいことと理由や例の関わりを明確にして下書きをしている。 ＜リーフレット②B＞
	1	○リーフレットの清書をする。	○魅力をより具体的に伝えることができるよう、必要に応じて絵や写真を用意する。	◇「大まかな説明」「みりよく1」「みりよく2」「まとめ」の内容につながりが認められる文章を記述している。 ＜リーフレット①B＞
ふりかえる	1	○リーフレットを読み合い、学習を振り返る。	○書き方を工夫して分かりやすいリーフレットにできたことを実感できるよう、互いのリーフレットから分かったことや、書き方のよいところを伝え合う機会を設定する。	◇リーフレットから分かったことや、書き方のよいところを記述している。 ＜発言・ノート③＞
	1	○まとめテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 ＜テスト②＞

【備考】

- 要約の際には、教科書p86『要約するとき』と関連させて行う。
- R05は、前半の説明文を読む学習において、実習単元として扱った。
- まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。

国語科 4年

〈言葉の学習〉（『漢字を正しく使おう』）		10月（4時間…知・技4）
目標	第4学年までに配当されている漢字を読み，第3学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第4学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第4学年までに配当されている漢字を読み，第3学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第4学年に配当されている漢字を漸次書いている。 (③主体的態度) 進んで第4学年までに配当されている漢字を読むとともに，第3学年までに配当されている漢字を書き，これまでの学習を生かして，漢字を正しく使うことに意欲をもとうとしている。	
○教材文を読み，平仮名で書くと同じになる言葉について考える。 ○馴染みのない読み方をする言葉の意味を国語辞典で調べ，短文を作る。		
【備考】		

〈季節の言葉3〉（『秋の楽しみ』）		10月（2時間…B2）
目標	言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすることができる。	
評価 規準	(①知・技) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（(1)オ） (②思・判・表) 「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） (③主体的態度) 積極的に語彙を豊かにし，行事の楽しさを伝える手紙を書こうとしている。	
○挿絵や写真を見たり短歌を読んだりして，秋の行事や様子を表す言葉を話し合ったり，図書等で調べたりする。 ○好きな秋の行事の楽しさを知らせる手紙を書き，友達と伝え合う。		
【備考】 R03はロイロノートを使用し，調べた言葉と写真をカードにまとめる活動を行った。		

単元	15 物語をしようかいしよう（『ごんぎつね』）		10月（13時間…C13）
目標	登場人物の気持ちの変化を想像して読んだり，一人一人の感じ方について違いがあることに気付いたりすることができる。		
話し活動	作品のおもしろさを紹介文に書く活動		
評価規準	(①知・技) 様子や行動，気持ちや性格を表す様々な語句を理解したり用いたりしている。 (②思・判・表) 「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度) 登場人物の気持ちの変化を想像しようとしたり，登場人物についての感想を述べようとしたりしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○『ごんぎつね』を読み，初発の感想を書く。	○『ごんぎつね』の登場人物の気持ちに着目して感想をもてるよう，登場人物の気持ちの変化にふれて文学作品の面白さを伝える紹介文のモデルを用意する。
	1	○初発の感想を発表し合い，学習課題をつかむ。 学習課題 ごんと兵十の気持ちの変化を想像しながら読み，作品の面白さを紹介しよう	○登場人物の気持ちの変化に対する課題意識をもてるよう，感想を場面ごとに整理する。
ふかめる	5	○ごんを中心とした登場人物の気持ちを話し合う。 ・場面1（ごんが兵十にいたずらをする場面） ・場面2（いたずらしたことを後悔する場面） ・場面3（兵十に栗や松茸を届ける場面） ・場面4・5（加助と兵十の話聞く場面） ・場面6（兵十がごんをうつ場面）	○複数の叙述を結び付けて登場人物の気持ちやその変化を想像できるよう，観点「会話文」「行動描写」「情景描写」を提示する。
	2	○作品全体を通しての登場人物の気持ちの変化を基に，作品の面白さを話し合う。	○想像したことを基に作品の面白さを考えられるよう，話し合う際の観点を提示する。
	2	○作品の面白さを伝える紹介を書く。	○想像したことの中から紹介したいことを選べるよう，書く内容を選ぶ際の観点「登場人物の性格」「場面の様子」を提示する。
ふりかえる	1	○紹介文を読んでよさを伝え合い，学習を振り返る。	○作品の内容に即して紹介文のよさを考えられるよう，書く内容を選ぶ際の観点を再提示する。
	1	○まとめのテストを行う。	
【備考】 ○様子を表す言葉やたとえの表現を根拠に，出来事の状態を具体的に想像することができるよう，想像の視点「見る位置」（「（登場人物に）なって感じる」「（登場人物を）見て気付く」）と，「見方」（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を提示する。 ○出来事の状態について想像したこと同士を結び付けながら，より具体的に想像することができるよう，想像したことを書き込める，ペアで1枚の本文シートを用意する。 ○まとめのテストについては，裏面の言葉の学習の授業に応じて，実施の時期を決める。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇登場人物の気持ちにふれて，初発の感想を書いている。
<ノート③>

◇登場人物の気持ちの移り変わりや結末の場面にふれて感想を発表したり，話し合ったりしている。
<発言③>

◇場面ごとに，複数の叙述を結び付けて想像したごんと兵十の気持ちやその変化を，自分の経験等との関連を明らかにしながら書いている。
<学習プリント①>

◇叙述を根拠にして，ごんと兵十の気持ちの移り変わりについて考えたことを記述している。
<ノート②>

◇観点到して，自分なりに面白いと思ったところを紹介文の内容として書いている。
<ノート②>

◇観点到して，友達を紹介文のよさを伝えている。
<感想③>

◇6割以上の問題について，正答を出している。
<テスト②>

国語科 4年

単元	16 役割を意識しながら話し合おう (『クラスみんなで決めるには』)		10・11月 (10時間…A10)
目標	目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。		
話し活動	学級の課題について学級全体で話し合う活動		
評価規準	(①知・技) 比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。(2)イ (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) (③主体的態度) 学習の見通しをもって、進んで司会などの役割を果たしながら話し合い、考えをまとめようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○話し合いで困った経験を話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 役割を意識しながら、多くの人が納得できる結論を目指して話し合いをしよう	○経験を基に課題意識をもてるよう、日頃の学級活動での役割や話し合い方について話し合う活動を設定する。
	ふかめる	2 ○話し合いの役割やルール、議題を決める。 2 ○話し合いの準備をする。 4 ○役割に沿って学級全体で話し合い、よくできたところや課題点を振り返る。	○学級全体で共有できる議題を決められるよう、4年生の行事や生活上の課題を話し合う機会を設定する。 ○目的や役割に沿った話し合いの見通しを立てられるよう、自分の役割に応じて進行計画を立てたり自分の考えをまとめたりする機会を設定する。 ○実際の話合いを基に話し合い方を改善していけるよう、話し合いの振り返りを基に次の話し合いを設定する。 ○意見を整理したり比べたりできるように、意見と理由を分けてメモを取ることができる学習プリントを用意する。
かえり	1	○単元の学習を振り返る。	○単元での学びを日頃の話合いにつなげられるよう、今後の生活に生かしたいことについて話し合う機会を設定する。
【備考】学級全体での話し合いは、学級活動における話し合いと関連させて行うとよい。			

〈言葉の学習〉 (『漢字の広場④』)		11月 (1時間…B1)
目標	第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価規準	(①知・技) 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) (③主体的態度) 進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、今までの学習を生かして、文を書こうとしている。	
○教科書の絵を見て、学校の様子を想像し、提示された言葉を使いながら、文章を書く。		

〈言葉の学習〉（『慣用句』）		11月（3時間…知・技2B1）
目標	長い間使われてきた慣用句の意味を知り，使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 長い間使われてきた慣用句の意味を知り，使っている。((3)イ) (②思・判・表) 「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) (③主体的態度) 進んで慣用句の意味を知り，学習の目標に沿って慣用句を使おうとしている。	
○教材文を読んで慣用句について知り，国語辞典で慣用句の意味を調べる。 ○慣用句を用いた文を含む文章を書く。 ○作った慣用句の例文を友達と伝え合う。		

○2学期の言葉のテストをする。		
【備考】 ○図書室に慣用句の辞典があるので活用するとよい。		

〈声に出して楽しもう〉（『短歌・俳句に親しもう(二)』）		11月（1時間…知・技1）
目標	易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむことができる。	
評価 規準	(①知・技) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) (③主体的態度) 進んで言葉の響きやリズムに親しみ，これまでの学習を生かして，音読したり暗唱したりしようとしている。	
○短歌・俳句を繰り返し音読し，言葉の調子や響きを楽しむ。 ○気に入った短歌・俳句を暗唱し，気に入ったことを友達と伝え合う。		
【備考】 ○言葉の調子や響きに繰り返し親しめるよう，家庭での音読を推奨する。		

単元	17 心に残ったことを紹介しよう（『友情のかべ新聞』）	11・12月（7時間…C7）		
目標	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。			
語活動	物語のおもしろさを紹介する活動			
評価規準	(①知・技) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(C(1)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度) 学習の見通しをもって、積極的に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、物語の魅力を紹介する文章を書こうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『友情のかべ新聞』を読んだ感想を伝え合い、学習課題をつかむ。 —学習課題— 登場人物の変化を想像しながら読み、物語のおもしろさを伝え合おう	○『友情のかべ新聞』の登場人物の変化に着目して感想をもてるよう、登場人物の変化に触れて物語のおもしろさを伝えるモデルを用意する。	◇登場人物の変化や気持ちに触れて、初発の感想を書いている。 <ノート・発言③>
ふかめる	3 1	○登場人物（東君、西君）の性格や行動を読み、「ぼく」の推理とのつながりを考える。 ○登場人物の変化を中心に、『友情のかべ新聞』のおもしろさを紹介する内容を考える。 ①登場人物の性格やそれが現れている叙述を紹介する。 ②登場人物の変化を中心に、物語のおもしろさを紹介する。	○物場面ごとの出来事や登場人物の性格や行動を表す叙述を表にまとめる機会を設定する。 ○自分が感じる物語のおもしろさを紹介できるよう、登場人物の変化を基に、物語のおもしろさとその理由を書く機会を設定する。	◇用いられている言葉や表現に気を付けて、登場人物の性格について、場面の移り変わり結び付けて記述している。 <学習プリント②> ◇登場人物の行動や気持ちを使いながら、登場人物の変化を中心に、物語のおもしろさについて紹介するための文を書いている。 <感想文①>
ふりかえる	1 1	○書いた文を基に、おもしろさを紹介し合い、学習を振り返る。 ○まとめテストを行う。	○一人一人の感じ方の違いに気付けるよう、「自分と比べて同じところと違うところ」という観点を提示する。	◇自分の感想と比べて、共通点や相違点を明らかにして学習の感想を記述している。 <ノート②> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>
【備考】 ○様子を表す言葉やたとえの表現を根拠に、出来事の状態を具体的に想像することができるよう、想像の視点「見る位置」（「(登場人物に)なって感じる」「(登場人物を)見て気付く」と、「見方」（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を提示する。 ○出来事の状態について想像したこと同士を結び付けながら、より具体的に想像することができるよう、想像したことを書き込める、ペアで1枚の本文シートを用意する。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。				

単元	18 理由を明確にして意見文を書こう（『もしものときにそなえよう』）		12月（11時間…B11）
目標	調べたことを基に、自分の考えが正しく伝わるように、理由を明確にして意見文を書くことができる。		
議題	調べたことをまとめて自分の考えを書く活動		
評価 規準	(①知・技) 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1) カ) (②思・判・表) 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B (1) ウ) (③主体的態度) 学習の見通しをもって、進んで調べたことを基に自分の考えをもち、学習課題に沿って意見文を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○自然災害への備えについて知っていることを出し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 自然災害への備えについて考えたことを、理由を明確にして文章に表そう	○理由を明確にして伝えることへの問題意識を高めるきっかけを得られるよう、理由に不備があるモデル文を提示する。
ふかめる	2	○テーマを決めて調べる。	○意見文に書く内容を絞ることができるよう、「大雨」「地震」「洪水」など、大きな枠組みを提示する。
	1	○「中」に書く内容を決める。	○書く内容をグルーピングできるように、分類の視点として「被害」「備え」などを提示する。
	1	○文章の組み立てを決める。	○自分の考えを伝えるための書き方の工夫を見付けることができるよう、「はじめ」と「終わり」に考え、「中」に理由を書いたモデル文を提示する。
	2	○意見文を下書きする。	○下書きを繰り返し修正できるように、段落ごとに下書きできる短冊を用意する。
	2	○意見文を読み合い、修正する。	○主述や接続の修正点に気付くことができるよう、書いた文章を音読する機会を設定する。
	1	○意見文を清書する。	○下書きの文字の大きさや位置を生かして清書できるように、下書きの用紙とサイズを合わせた清書用紙を用意する。
	1	○清書した意見文を読み合い、感想を伝え合う。	○互いの意見文に対して感想をもちやすくなるよう、「伝わった内容」「伝わりやすい工夫」を視点として提示
【備考】	◇理由を明確にして伝えることに関わって、学習課題について記述している。 <ノート・発言③>		
	◇テーマに関わる情報を集めて記録している。 <ノート②>		
	◇視点に基づいて、集めた情報をグルーピングしている。 <ノート②>		
	◇「はじめ」「中」「終わり」に書かれている内容や書かれ方について発言したり記述したりしている。 <ノート②>		
	◇内容のまとまりごとに、短冊に分けて文章を記述している。 <短冊②>		
	◇主述や接続に関わって、短冊に書いた文章を修正している。 <短冊①>		
	◇考え（「はじめ」「終わり」）と理由（「中」）の内容がつながる文章を書いている。 <意見文②>		
	◇提示された視点に沿って、友達の書いた文章に対して感想を記述している。 <ノート②>		

〈季節の言葉4〉（『冬の楽しみ』）		1月（2時間…B2）
目標	言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。	
評価 規準	(①知・技) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ (②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) (③主体的態度) 積極的に語彙を豊かにし、学習課題に沿って、行事の楽しさを伝える手紙を書こうとしている。	
○挿絵や写真を見たり俳句を読んだりして、冬の行事や様子を表す言葉を話し合ったり、図書等で調べたりする。 ○自分の住む地域の冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作る。 ○作ったかるたで遊ぶ。		

単元	19 好きな詩を集めよう（『自分だけの詩集を作ろう』）	1月（5時間…B2C3）		
目標	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。			
話し 活動	気に入った詩を集めた「自分詩集」を作る活動			
評価 規準	(①知・技) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ (②思・判・表) 「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ) 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度) 学習の見通しをもって、集めた詩で詩集を作り、進んで読み合っ感じたことや考えたことを共有しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか かむ	1	○教科書の詩を読み、詩の共通点や相違点、友達との感じ方の違いを話し合い、学習課題をつかむ。 —学習課題— 自分が気に入った詩を集め、「自分詩集」を作ろう	○共通の詩に対する感じ方の違いに気付けるよう、教科書の詩から感じたことを話し合う活動を設定する。	◇詩に対する感想を発話したり記述したりしている。 <行動・ノート③>
ふか める	2 1	○テーマを決めて、詩を集める。 ○集めた詩を清書し、「自分詩集」を作る。	○興味に合った詩を見付けられるよう、図書室にある詩集を多数用意する。 ○複数の詩を書けるよう、一人複数枚の清書用紙を用意する。	◇自分のテーマに合った詩を複数見つけている。 <ノート②> ◇選んだ詩と、その詩の感想や選んだ理由を書いている。 <清書②>
ふり かえる	1	○詩集を友達と読み合い、感じ方の違いについて話し合う。	○一つの詩でも感じ方に違いがあることに気付けるよう、詩集の中の詩について、互いの感想を伝え合う機会を設定する。	◇友達の詩集に対する感想を伝えたり、自分の詩集のよさを見つけたりしている。 <行動①③>

20 書くときに使おう（『言葉から連想を広げて』）		1月（2時間…B2）
目標	経験や考えたことなどを詩に書く活動	
評価 規準	(①知・技) 必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。(2)イ (②思・判・表) 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) (③主体的態度) 進んで連想を広げ、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、ひと言で詩を書こうとしている。	
○まど・みちお作「ニンジン」を読み、連想を広げてひと言で詩を書くことに関心を高める。 ○P95の「にんじん」を中心にしたマップを例に、表現したいことからさまざまに発想を広げ、思いついた言葉を書き出す。 ○書き出した言葉を組み合わせたり、順序を変えたりして、どのように表現するのかを考える。 ○ひと言で詩を書き、互いに読み合う。		

〈言葉の学習〉（『熟語の意味』）		1月（2時間…知技2）
目標	第4学年までに配当されている漢字を読むことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第4学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ (③主体的態度) 進んで第4学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、漢字や熟語を正しく読んだり書いたりしようとしている。	
○熟語について知り、訓を手がかりにして熟語の意味を考える。 ○漢字の組合せから熟語の意味を話し合う。		

〈言葉の学習〉（『漢字の広場⑤』）		1月（1時間…B1）
目標	第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) (③主体的態度) 進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習を生かして、文や文章を書こうとしている。	
○教科書の絵を見て、休日の様子を想像し、提示された言葉を使いながら、文章を書く。		

単元	21 きょうみをもったことを中心にしょうかいしよう（『風船でうちゅうへ』）	1月（9時間…C9）		
目標	事実と意見との関係を捉えて読み，自分が興味をもったところを中心に文章を要約したり引用したりすることができる。			
語活動	文章を読んで興味をもったところを紹介する活動			
評価規準	(①知・技) 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使い，語彙を豊かにしている。(I)オ (②思・判・表) 「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約している。(C(I)ウ) (③主体的態度) 文章を読んで理解したことに基づいて，進んで感想や考えをもち，学習課題に沿って，教材文を紹介する文章を書こうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○3年『ありの行列』の学習経験を話し合ったり，『風船でうちゅうへ』の初発の感想を発表し合ったりして，学習課題をつかむ。 学習課題 自分が興味をもったことを要約して紹介しよう	○目的意識をもって文章を読むことができるよう，感想を書く観点「興味をもったこと」を提示する。	◇本文を読んで，興味をもったことを中心に感想を書いている。 <ノート③>
ふかめる	1	○自分が読む際の観点を決める。	○読む際の観点を共有できるよう，興味をもったことを基に，観点の例を話し合う活動を設定する。	◇興味をもったところを中心に，読む観点を決めていく。 <ノート③>
	1	○観点に沿って，文章を内容のまとまりごとに整理する。	○読む際の観点に沿って文章の内容を捉えられるよう，同じ観点の友達と読み取ったことを話し合う機会を設定する。	◇観点に沿って，内容のまとまりごとに大事な言葉を書き出している。 <ノート②>
	1	○観点に沿った，中心文の見つけ方を話し合う。	○読む際の観点に沿った，中心となる文の見つけ方の手がかかりをつかめるよう，見付けるまでの手順を示したカードを提示する。	◇要約文を書くために必要な手順を，カードを並べ替えて作っている。 <手順を示したカード②>
	1	○前時に話し合った見つけ方を用いて文章を要約する。	○繰り返し要約に取り組むことができるよう，前時に話し合った手順並べたフローチャートを提示する。	◇本文の構成を生かし，大事な言葉を使って要約文を書いている。 <要約文②>
	2	○要約文を引用して，興味をもったことについての紹介文を書く。	○構成を整えて紹介文を書けるよう，「興味をもった観点」「要約文」「自分の感想」という構成例を提示する。	◇構成に沿って，指示語や接続語を用いて紹介文を書いている。 <紹介文①>
ふりかえる	1	○清書した紹介文を読み合い，感想を交流する。	○友達の書いた紹介文の構成や内容についての感想をもてるよう，紹介文を読み合う際のグループを編制する。	◇構成や要約のよさにふれて，友達の紹介文についての感想を発言したり記述したりしている。 <発言②>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について，正答を出している。 <テスト②>
【備考】 ○まとめのテストについては，裏面の言葉の学習の授業に応じて，実施の時期を決める。				

〈言葉の学習〉（『つながりに気をつけよう』）		2月（2時間…知・技I B I）
目標	語句同士の関係や、指示する語句と接続する語句の役割について理解し、文や文章を整えて書くことができる。	
評価規準	(①知・技) 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解している。((1)カ) (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B (1)エ) (③主体的態度) 進んで主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解し、これまでの学習を生かして、つながりに気をつけて文章を書こうとしている。	
○主語と述語の対応について考え、例文を書き直し、適切な対応の仕方を話し合う。 ○修飾語の係り受けについて考え、例文を書き直し、適切な係り受けの仕方を話し合う。 ○一文の長さについて考え、例文を書き直し、適切な一文の長さを話し合う。		

単元	22 心の動きを言葉にして、詩を書こう（『心が動いたことを言葉に』）	2月（8時間…B 8）		
目標	気持ちを伝える表現を吟味して、感動したことを詩に表すことができる。			
語活動	経験や考えたことなどを詩に書く活動			
評価規準	(①知・技) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B (1)エ) (③主体的態度) 学習の見通しをもって、心を動かされたときのことを詩に書き、進んで間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○生活の中で感動したことを試しに詩に表し、それを読み合っ て気付いたことを話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 感動をぴったり表す言葉を探して詩を書こう	○気持ちを伝える語彙や詩の組み立てに着目して課題意識をもてるよう、作った詩の特徴を話し合う活動を設定する。	◇ 語彙や組立といった表現の特徴に関わって、課題を記述している。 <ノート③>
ふかめる	1	○詩に書きたいことを決める。	○複数の視点から経験を想起できるよう、教科書p78の題材例を基に、生活の中で感動した経験を話し合う機会を設定する。	◇詩に書きたいことを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
	1	○詩に使いたい言葉を選び、詩の組立を考える。	○伝えたいことに合った言葉や組立を選べるよう、気持ちを伝える語彙や複数の詩の組立について、特徴を話し合う機会を設定する。	◇伝えたいことに合った言葉や組立を選んでいる。 <ノート①>
	2	○詩を下書きする。	○表現の適切さを確かめながら整えて書けるよう、書いた詩をペアやグループで適宜読み合える機会を設定する。	◇伝えたいことに適した言葉を用いて詩を書いている。 <下書き①>
	1	○詩を読み合っ、気付いたことを伝え合う。	○表現の仕方に着目して詩の感想をもてるよう、読む際の視点「表現のよいところ」「変えるとさらに伝わりやすくなる」ところを提示する。	◇友達の詩のよいところや改善点を発言したり記述したりしている。 <ノート②>
	1	○詩を清書する。	○さらに伝わりやすい表現に修正しながら書けるよう、語彙や組立を再度例示する。	◇適切な表現に修正しながら詩を清書している。 <清書②>

国語科 4年

ふりかえる	1	○清書した詩を読み合い、学習を振り返る。	○伝えたいことを適切に表現できたことを実感できるよう、ペアを繰り返し代えながら互いの詩を音読する機会を設定する。	◇楽しんで詩を音読している。 ＜音読③＞
【備考】 ○他学級の友達にも感想をもらえるよう、詩の清書は掲示したり冊子等にしたりするとよい。				

単元	23 調べて分かったことを話そう（『調べて話そう、生活調査隊』）			2・3月（9時間…A9）
目標	話の中心や話す場面を意識して適切な資料を用い、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。			
議題	生活について調べたことを資料を用いて発表する活動			
評価規準	(①知・技) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A (1)イ) (③主体的態度) 進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、これまでの学習を生かして、調査の報告をしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○身近な生活の中にある疑問やそれに対する予想や知っていることを話し合い、学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 学習課題 生活に関する疑問をグループで調べて、分かったことを発表しよう </div>	○身近な生活の中にある疑問について興味をもてるよう、子どもたちの生活に関わるテーマについて話し合う機会を設定する。 (例：「放課後の過ごし方」「好きな教科」等)	◇ 身近な生活の中にある疑問やそれに対する予想について、自分の考えを記述している。 ＜ノート③＞
ふかめる	1 2 2 1	○グループで調べたいことを決める。 ○アンケート調査を行う。 ○調べたことをまとめ、発表資料をつくる。 ○発表練習をする。	○調べたいことを選択できるように、テーマを複数例示する。 ○目的に合ったアンケート調査を行えるよう、答える人が明確に答えやすい質問項目の例を提示する。 ○話の中心が明確に伝わる発表にできるよう、話の構成や資料に表す内容をグループで話し合う活動を設定する。 ○利き手への伝わり方を意識できるように、グループ内で話し手と聞き手に分かれて練習する機会を設定する。	◇話し合いを基に、グループで調べたいことを決めていく。 ＜話し合い②＞ ◇調べたいことに合ったアンケート調査を行っている。 ＜行動②＞ ◇ 話の構成を決め、発表資料をつくっている。 ＜ノート・発表資料②＞ ◇ 声の大きさ等に気を付けて発表練習をしている。 ＜行動①＞
ふりかえる	2	○発表会を行い、感想を伝え合う。	○発表の工夫に着目して感想をもてるよう、聞く際の視点「声（大きさ・速さ・強弱・間）」「話（事例と理由・構成）」「資料（内容・見せ方）」等を提示する。	◇視点に沿って感想や質問を伝えたり記述したりしている。 ＜発言・ノート③＞
【備考】 ○アンケートを行い、その結果をグラフにする際には、算数でのグラフの学習と関連付ける。 ○ロイロノートのアンケート機能を用いると、グラフの作成が容易になる。				

国語科 4年

単元	24 読んで感じたことをまとめ、伝え合おう（『スワンレイクのほとりて』）		3月（9時間…C9）
目標	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。		
語活動	物語を読んで感じたことや考えたことを伝え合う活動		
評価規準	(①知・技) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 (③主体的態度) 学習の見通しをもって、進んで読んで感じたことをまとめて伝え合い、文章を読んで感じたことや考えたことを共有して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○本文を音読し、初発の感想を書く。	○既習事項を生かして読み、感想をもてるよう、『ごんぎつね』や「会話文」「行動描写」「情景描写」について学習したことを伝え合う機会を設定する。
	1	○初発の感想を話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 読んで感じたことをまとめ、伝え合おう	○感想やその根拠となる叙述の共通点や相違点に気付けるよう、感想や叙述をグループ分けして板書する。
ふかめる	5	○場面ごとに読んで感じたことをグループで伝え合う。	○感想の根拠となる叙述を共有できるよう、着目した叙述に線を引いたり、感想を書き込んだりできる本文シートを用意する。 ○想像したことを確かめられるよう、本文を音読する機会を複数回位置付ける。
ふりかえる	1	○物語全体の感想をまとめ、伝え合う。	○物語全体を通して感想をもてるよう、物語全体を通して音読する機会を設定する。
	1	○まとめテストを行う。	
【備考】 ○様子を表す言葉やたとえの表現を根拠に、出来事の状態を具体的に想像することができるよう、想像の視点「見る位置」（「（登場人物に）なって感じる」「（登場人物を）見て気付く」）と、「見方」（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を提示する。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

〈言葉の学習〉（『漢字の広場⑥』）		3月（1時間…B1）
目標	第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	
評価規準	(①知・技) 第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） (②思・判・表) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） (③主体的態度) 進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、学習課題に沿って文を書こうとしている。	
○教科書の絵を見て、1年間の出来事について、提示された言葉を使いながら、文章を書く。		